

地球温暖化防止のための道路政策会議 設立趣意書

地球温暖化問題は、自然の生態系や人類の生存基盤に深刻な影響を及ぼす重要な世界規模の環境問題であり、我が国においても、異常気象や動植物の生息域の変化等の一因として地球温暖化が指摘されている。

このような中、2005年2月16日に京都議定書が発効され、これを受けて現在京都議定書目標達成計画がとりまとめられているところである。同計画には、京都議定書における二酸化炭素排出量の削減目標である1990年比6%削減を確実に達成するために必要な措置が定められる。

また、我が国では、二酸化炭素排出量の約2割を運輸部門が占めており、そのうちの約9割が自動車から排出されている。

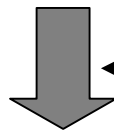
自動車からの二酸化炭素排出量を減らすためには、交通流の円滑化による走行速度の向上が有効であることから、同計画では、幹線道路ネットワークの整備や交差点の立体化等の交通容量の拡大とともに、自動車交通需要の調整や高度道路交通システムの推進等の具体的な対策が位置付けられる予定である。

今後、地球温暖化の防止に向けて、同計画に定められる道路政策の推進に向けて鋭意取り組んでいく必要があり、そのため、道路政策による二酸化炭素の抑制の効果の把握、二酸化炭素の抑制のための道路政策の体系化、それに基づいた道路政策の推進などについて、幅広く総合的に検討することを目的として、本会議を設置するものである。

地球温暖化防止のための道路政策会議 スケジュール（案）

第1回（4月26日）

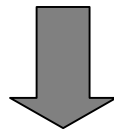
道路交通におけるCO₂排出の現状について



論点整理

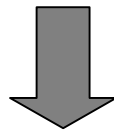
第2回（5月下旬）

論点毎に意見交換



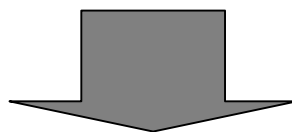
第3回（6月下旬）

重点的に取り組むべき具体的方策と
その定量的な効果について



第4回（7月下旬）

「中間取りまとめ」について



中間取りまとめを受けて、具体的方策を実施